

令和元年度 特別養護老人ホームいいたてホーム事業報告

1. 基本方針

ご利用者の生活が家庭の延長と感じられる「居心地の良い」環境作りのため、必要とされているケアを、必要な時に提供できるよう、ニーズを発掘し、意識を高められるよう努めてきました。そのために、日々のケアが「自己決定」できることを基本に、多職種間との連携を図り、諦めないケアを展開してきました。

また、重度化していく方の尊厳が保持されると共に、関わりの時間を大切に「ホームの家族」のスタイルを崩さず、ご家族と共に暮らしを支えてきましたが、年末にインフルエンザ感染予防や年度末の新型コロナウィルス感染拡大防止のため、家族等の面会を制限せざるを得ない状況になりました。

今年度（4月～11月）のご家族等の面会者は延べ552名。面会回数が多かった方で51回でした。週1回程度のペースで面会出来ていたのが、面会制限でご家族等との時間が無くなり残念な思いです。そんな折、テレビ電話で面会を楽しめたご家族もあり、微笑ましくも家族の大切さを知らされたひと時でした。

2. 重点目標

（1）暮らしに寄り添う

① 生活の場について

居心地が良いと感じられる環境に努めてきました。

（外出できない環境の中で、普段とは違った雰囲気の環境をつくり、気分転換やメンタル面のケアが出来るよう四季の行事やレクリエーション等を充実させてきました。）

② 社会との繋がり

- 外出支援は、買い物や外食、桜の花見と紅葉の時期にドライブ等を実施し、交流や社会との繋がりを継続していくよう努めてきました。
- 今年度は、村内の小学校や認定こども園との交流を持つ機会が少なくなってしまいました。これは、日程の調整ができなかったためであり、次年度は、事前に計画を立て、交流の機会を増やして行きたいと思います。

③ 認知症・重度化のケア

- 年々高齢化と認知症状が重度化していく方の症状進行防止のため、家庭的な雰囲気の中で、食事づくりをする機会や懐かしい歌を聴いたり歌ったりすることで、機能低下防止を図ってきました。また、ケアでは、言動に寄り添い、理解を深め、尊厳の意識を高めてきました。
- ケア統一と継続が図れるよう「ケアシート」を活用し、他職種間との情報共有に努めました。

（2）職員一人ひとりの意識を高めていく

- 介護・医療・栄養の連携を密に専門ケアを行えるようにしてきました。
（職員一人ひとりが情報を共有し、意見交換することで知識を深めることができました。）
- 「24Hシート」を整備、実際に活用できるものとし、介護職員がユニットの配置替えになっても同じケアを提供できるよう努めてきました。

(3) 自立支援（ミニディの開催）

自立支援を目的に月2回、施設内でデイサービスを開催。普段の生活にメリハリを持って頂き、他ユニットとの交流がもてました。また、在宅で行ってきた作業の継続と達成感が持てるよう、昼食を自分達で調理することを勧めることで、生き生きとしていました。

3. 具体的な施策

(1) 各委員会

ア. 食事、口腔ケア委員会

食事と口腔ケアについて、食事を美味しく目で楽しめ、安全に食べて頂けるよう取り組んできました。特に、毎月の行事食では厨房職員が中心となり、少しでも楽しんで頂けるようメニューと食事形態を検討してきました。

口腔ケア担当では、口腔内の衛生は勿論、食事を美味しく食べて頂くためのケアを目標に、用具の選定や統一したケアができるよう、常に見直してきました。また、食前体操は、昼食前の時間に行ってきました。

イ. 入浴・行事委員会

普段の入浴から、季節感を味わって頂けるよう「菖蒲湯」や「ゆず湯」等を提供してきました。また、「お風呂の日」を設定、大浴場を利用することで、個浴の利用者が銭湯気分で他の利用者と交流が持てるよう工夫してきました。

ウ. 排泄・褥瘡防止対策委員会

排泄用品の選定からスキンケア、ベッド上で休んでいる方のポジショニング、車いすのクッションの使用について勉強会を開催し取り組んできました。

また、普段行っている排泄交換を見直しすることで、個々に合った排泄が快適にできるようにしてきました。

エ. ケアプラン・ユニット委員会

ケアマネジメント、サービス計画等を学び、各家でのケア会議等が充実できるよう取り組んできました。24Hシートとアセスメントシートと一緒にすることで、継続性が分かり、また、生活様子表にもケアチェックをすることで、ケアの統一が図れました。

ユニット班では、今までのユニットマニュアルの見直しや現場でできる具体的な内容としました。

オ. リスクマネジメント委員会

アクシデント発生時には、速やかに問題回避ができるようケア会議を行い、繰り返さない取り組みをしてきました。委員会開催時には、アクシデント内容を分析し、改善方法等を職員会議において周知してきました。

カ. 環境委員会

家長が兼務し、施設内の環境整備に努めました。ワックス掛けでは、職員の勤務に合わせ全館を行うことができました。車いすの洗浄やベッド周囲の清掃については、各家で計画的に行えるよう声掛けをしてきました。

キ. 身体拘束・虐待防止委員会

施設内での身体拘束や虐待が行われていないかを定期的に確認し、安心してケアが受けられる生活環境を提供してきました。

今年度、虐待は勿論、身体拘束はありませんでした。

(2) 会議の充実

① 家長会議の充実

毎月 1 回開催、タイムリーに職場環境や各家での問題点について話し合われてきました。

開催月日	項目	内容
H31.4.17	① 年間目標と計画について ② 勤務体制について	① 各家の取り組みについて目標を持ち計画 ② 前日遅番、翌日早番の勤務体制で利用者の把握ができる
R1.7.1	① 行事について ② 業務の見直し	① 夏まつりについて（8月3日開催） ② 日勤と遅番の勤務時間について
8.29	① 応援職員 ② 行事について ③ 業務の見直し	① 7月～3ヶ月 10月～6ヶ月の期間 ② 敬老会（9月15日開催） ③ PHSの所持と対応について
10.23	① 行事について ② 施設の環境整備	① 芋煮会・ミニ運動会（11月3日開催） ② ワックス掛け（11月3日 午後から）
11.22	① 行事について ② 利用者の入居について ③ 介護マニュアルについて	① クリスマス会（12月22日開催） ② 増やせる体制づくり ③ 個別ケア（ユニットケア）等マニュアル見直し
R2.1.21	① 福祉会の現状について ② 百歳賀寿祝いについて ③ 3月の監査について	① 現況及び給与規程一部変更の説明 ② 式典について（M. Nさん） ③ 監査内容の確認
2.27	① 就業規則について ② 感染症拡大防止について ③ 行事について	① 就業規則等及び諸規程の一部変更の説明 ② 新型コロナウイルス感染拡大防止について（面会制限等） ③ ひなまつり会（3月1日開催）
3.23	① 人事異動等について ② 業務の見直し ③ 合同誕生会	① 退職者、昇格者内示 ② 早①の勤務体制について ③ 3月誕生者の合同誕生会（3月27日開催）

② 職員会議

毎月最終木曜日に、勤務者以外の全職員が情報共有のため、多職種間や各家の現況報告と委員会の取り組みについて報告してきました。

また、職員のレベルアップのため、職員の研修報告の場を設け、研修のフィードバックが出来るようにしてきました。

③ 家内会議

毎月 1 回、各家で取り組みを話し合い、統一したケア方針を持つように開催。

また、共通した情報を得、協力・信頼・刺激し合うことで、職員一人ひとりのレベルアップとコミュニケーションの場として充実させてきました。

(3) 年間行事

主な行事関係等

月 日	主 な 内 容	
4.18	花見ドライブ	真野ダム～涼ヶ岡八幡宮（相馬）～松川浦～セデッセかしま（昼食）と暖かい春を満喫してきました。 (9名参加)
4.20	家族会総会 花見昼食会	30名の家族の出席があり、総会後、各家で利用者・ご家族・職員が交流。また、厨房手作りの花見弁当で和やかに過ごしました。 (各家 全員参加)
5.30	柏餅つくり	季節感を味わって頂くため、ご利用者と一緒に柏餅づくりをしました。餡を丸めながら、ちょっとつまみ食いする笑顔は、周囲の方々を微笑みにかえっていました。 (西棟ホール：ご利用者14名)
6.26	百歳賀寿祝い	高橋嘉子さん百歳賀寿祝いを行い、ご家族の方が大勢出席されました。県から表彰を受け、ホームからは厨房手作りの誕生日ケーキ（フルーツケーキ）と好きな本が贈られました。職員からは大黒舞と花笠音頭の披露でお祝いを盛り上げました。 (西棟ホール 全員参加)
7.7	七夕昼食会	西棟ホールで恒例の七夕昼食会を行いました。寿司桶にそうめんを入れ色とりどりのトッピングをすることで、涼しげに食べられていました。 (西棟ホール 全員参加)
8.3	夏祭り	昨年度より、ホーム夏祭りを屋外で行いました。真夏の暑さが心配であり、体力のないご利用者に気遣いながら、全員浴衣や甚平に着替え、模擬店や盆踊り、花火を楽しみました。 (前庭：全員参加)
9.15	ホーム敬老会	西棟ホールで敬老会を行う。百歳以上のご利用者4名の表彰を行い、梁川町から踊りのボランティアで盛り上げて頂きました。また職員より、大黒舞と男性職員の歌の披露がありました。昼食は、厨房より手作りのお祝い弁当を美味しく頂きました。 (西棟ホール：全員参加)
9.19	陶芸教室	ミニディー参加者が、自分のカップを作る陶芸体験を行いました。粘土からカップに成型するのは難しかったようですが、職員や陶芸教室のスタッフに助けられ自分なりのカップができたようです。 (参加者：ご利用者 10名)
10.2	お風呂の日	普段個浴を利用している方を対象に、ホームの西棟大浴槽を開放し銭湯気分を味わって頂きました。複数での入浴を楽しみ会話を弾んでいました。 (参加者：12名)
11.3	ホーム芋煮会・ミニ運動会	例年同様、東棟大ホールにて、ミニ運動会と芋煮会を開催。ミニ運動会は、玉入れや、パン食い競争を行い、昨年より笑いあり、動きがありとても楽しそうでした。芋煮会ではご家族の方と職員が共同で行い、たくさんの料理を作って頂きました。運動後の食事とあって、ご利用者・ご家族・職員の会話も弾みとても良い交流がもてました。 (参加者：全員)
12.22	クリスマス会	今年のクリスマス会は、利用者も職員も楽しめる催しにしました。利用者のハンドベル、職員のダンス、職員・利用者が一緒にマジックを披露して盛り上りました。昼食には厨房より鶏の丸焼きが出て、皆さん驚きながらも美味しそうに食べていました。また、今年も日赤奉仕団より、手作りケーキのプレゼントがあり、美味しく頂きました。 (西棟ホール 全員参加)
12.27	餅つき	年末恒例の餅つき。7升のもち米を3回に分けて餅つきを行いました。利用者も千本杵で餅をついたり、ジュウネンを擦ったりしました。つきあがった餅は、お供え用と昼食のあんこ餅や汁餅等で、皆一緒に美味しく頂きました。 (西棟ホール 全員参加)
1.6	新年会	初顔合わせと挨拶を兼ね新年会を催しました。職員の余興（二人羽織、安木節等）で、初笑いや、昼食には、厨房手作りの祝い膳を堪能しました。 (西棟ホール 全員参加)
1.14	団子さし	季節感を味わって頂くため、小正月に団子刺しを行いました。慣れた手つきで団子を丸め、ミズキに、色とりどりの団子の花を咲かせました。 (西棟ホール 15名参加)
1.23	百歳賀寿祝	ぬくもりの家の方の百歳賀寿祝いを行いました。ご家族も6人の出席があり、涙ぐむ姿もありましたが、皆でお祝いすることができます。 (西棟ホール 20名)
2.3	豆まき	利用者で年男年女は一人しかおらず、職員も一緒に、各ユニットを回りながら豆まきをしました。鬼に向かって豆をぶつける等賑やかに行いました。昼食には、厨房からの恵方巻を皆でかぶりつきました。 (全員参加)
3.1	ひなまつり会	ひな祭り会を兼ねて食事会をしました。利用者一人ひとりが着物を着て記念撮影をしました。昼食には厨房職員が利用者の目の前で寿司を握り、嬉しそうに召し上がってきました。 (西棟ホール 全員参加)
3.27	合同誕生会	今までご家族と一緒に誕生会や行事を行っていましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止により面会制限となったため、3月誕生者の合同誕生会を厨房からの大きなケーキでお祝いをしました。昼食には、利用者のリクエストの食事が提供され、楽しいひと時を過ごしました。 (西棟・北棟ホール 全員参加)
毎週日曜日／毎週木曜日		手作りおやつで喫茶タイム／音楽療法
月2回		ミニディ
月1回（月末）		避難訓練を実施

令和元年度 ひだまりの家 生活報告書

1. 家目標と基本方針について

今年度の家目標は、「自発性を活かし、笑顔で穏やかに過ごして頂く。また、ご家族とのコミュニケーションを密に図る」を掲げ生活を送ってきました。

① 高齢に伴い、重度化している中でも、自立されている方もおり、身体的、精神的な面や、声掛けや関わり方も個々に合わせたケアが必要とされています。時折、ご利用者同士のトラブルも発生するなど、日々難しい対応に迫られる時もありましたが、多職種間との協力を得、過ごすことが出来ました。

その中でも、2月3日に104歳、3月21日に102歳の誕生日を迎えた方がおり、職員の誇りに思え励みにもなりました。

② 朝のラジオ体操から始まり、レクリエーション、食前体操（扈）と、心身の機能維持に努めてきました。また、ラジオ体操では、手を動かせる方が多いので極力一緒に行うようにしてきました。

③ ベッド上での生活が多くなる方に対しては、離床しフロアで皆さんと一緒に過ごし、見守りをしながら孤独にならない環境作りに配慮してきました。

④ 下肢の血行不良や浮腫みのある方に対しては、メドマー等を施行したり、保温性のある靴にするなど状態悪化防止に努めました。

⑤ 新しく4月に入居された方については、家庭の延長で過ごして頂ける環境作りとして、愛用されていた茶道具を自宅より持参して頂き、自分でいつでも気兼ねなく飲めるようテーブルを配置することで不安の軽減に繋がりました。また、料理の下準備や炒め作業、洗濯物たたみと配膳等の役割を持つことで、生き甲斐にも繋がったのではないかと思います。

⑥ 9月に入居された方についても、ご主人からの情報を基に、その方の生活スタイルを大事に考え、部屋とは別にセミパブリックスペースを設けることで、落ち着いて過ごされるようになりました。また、歩行が出来る方なので、歩行訓練を日常に取り組み下肢機能の維持に努めました。

⑦ 月1回のミニディでは、6名の方が参加され、食事作りや作品作りを楽しまれ、機能維持や食欲増進、遣り甲斐に繋がり良かったと思います。今後も充実した生活が送れるよう工夫していくたいと思います。

⑧ ホーム全体の年間行事（外食ドライブ、七夕会、夏祭り、敬老会、ミニ運動会&芋煮会、クリスマス会、餅つき会、新年会、団子さし、節分（豆まき）、ひな祭り、ミニディ）に参加されました。その都度、皆様の笑顔を沢山見る事ができ、職員の遣り甲斐にもなっています。

2. 生活全般について

1) 食事について

① 目の前で配膳し食欲増進に努めました。また、少しでも多く栄養のある物を食べて頂きたく、個々の状態に合わせ、食事形態と嗜好を踏まえながら代替え食を提供したり、体調管理にも努めました。

② 食前体操は元より、義歯に不具合のある方に対しては、通院しメンテナンスする事で、口

から美味しく食べられるようになりました。

- ③ 食事と経管栄養の併用の方に対しては、看護師や栄養士と情報を共有し、本人が負担となる生活が送れるように対処しながら体調管理に努めました。
- ④ 水分不足と思われる方に対しては、ほうじ茶寒天を作り、毎食前食べて頂くことで体調も落ち着かれています。

2) 排泄について

- ① トイレで排泄している方の尿臭軽減を図るために、陰部洗浄を細やかに行ったり、また、排泄後は必ず除菌剤を使用する等、尿臭対策にも力を入れてきました。
- ② 個々の尿量に合った排泄パットを隨時見直してきました。
- ③ 排泄交換時は洗浄と個々に合わせた軟膏を塗布し皮膚の保護に努めてきました。
- ④ 新規入居者に於いては、排便コントロールが難しく、看護師と連携し、食物纖維や下剤の調整を行う等、状態のコントロールに努めてきました。

3) 入浴について

- ① 高齢化・重度化に伴い皮膚も弱くなり、皮膚と衣服の摩擦等により内出血が見られることもあり、その都度、家内で周知し安全で快適な入浴が出来るよう、その時の状態に合わせ個浴から特浴に変更する工夫をしてきました。
- ② 入浴を拒否する方もおり、入浴時間を変更したところ、以前のような強い拒否がなくなり、湯上りに「気持ちよかったです」という声が聞かれるようになりました。
- ③ スキンケア対策として、個々に合った入浴剤やボディーソープ、ローション、ワセリン等を用い肌に潤いを保つようにしてきました。

3. 家内の取り組みについて

- ① 我が家の畑に野菜を植え、収穫をする楽しみと、一緒に調理する楽しみ、美味しく食べて頂けたと思います。
- ② 6月に外食ドライブで飯館の道の駅に出かけました。昼食を自分で注文し、大きな丼物を平らげるなど気分転換になったようでした。
- ③ 自分らしく気兼ねなく過ごせる雰囲気作りをするために、一人ひとりの行動や性格を共有し、温かく見守る努力をしてきました。時には過剰なケアになった時もあり、今後の課題であります。
- ④ 104歳の方が趣味とする縫物を継続出来るような環境作りを心掛けてきました。特に、制作したリースを村文化祭に出展しました。このことが遺り甲斐に繋がったようです。
- ⑤ 誕生会では、少しでもご家族との時間を大切にして頂きたく、ご家族の協力を得て、今年度は2名の方が自宅でお祝いするができました。今後も、体力的に外出が可能な方につきましては、大切な時間をご家族の方と一緒に過ごせるよう働きかけて行きたいと思います。
- ⑥ 家会議では、意見を出し合い色々な視点から最善のケアを模索し、試行錯誤しながらケアに繋げて来てきました。統一したケアに欠けた時もあったので、今後は、出来るようにして行きたいと思います。

※ 今後も年々高齢化、重度化が進みますが、家職員、多職種間との連携の下、体調管理と安心して和やかに過ごして頂けるような環境作りに努めて行きたいと思います。

1. 家目標と基本方針について

- (1) 生活形態を把握することで一人ひとりの生活を大切にしてきました。また、居心地の良い居場所作りを目指し、ケアの充実を図ることに努めてきました。
- (2) 終末期ケアについては、日々の身体の状態が大きく変わることが多く、申し送りを細やかに行うことで、統一したケアを提供することが出来ました。
- (3) 具体的な計画に掲げた“常に笑顔を忘れずにケアにあたる”については、難しさを痛感する場面が多くありました。
- (4) 面会が多かったこともあり、ご家族の皆さんとコミュニケーションを図ることができ良好な関係づくりが出来ました。

2. 生活全般について

(1) 食事について

日々のケアの中の気付きが大切であり、“こんな風にしたら美味しく食べてもらえるのではないか”と云う意見を出し合ってきたことから、喜んで頂ける食事が提供できたのではないかと思います。また、食事内容についても看護師や栄養士と話し合い、状態に合わせた食事を提供できたと思います。

(2) 排泄について

個々の時間帯や季節によって尿量に違いもあるため、毎日、排泄チェック表を活用しながら排尿量に合わせたパットの見直しを行ってきました。こうすることで尿漏れ等を軽減することが出来ました。今後の課題としては、尿臭が強い方の尿臭軽減等に取り組んでいきたいと思います。

(3) 入浴について

一人ひとりの身体状況に合った入浴形態の見直しを行い、安全に入浴できるケアに取り組んでいきたいと思います。

3. 家内の取り組みについて

- (1) ユニットの取り組みとして、終末期を迎えた方に対するケアの内容について、多くのことを学び、考える機会も頂いた1年のような気がします。
- (2) レクリエーションに関しては、今後、居室などで休まれている方多かったですことから、体を動かすレク以外の外気浴や散歩などを多く取り入れたレク活動をしたいと考えています。

令和元年度 やすらぎの家 生活報告書

1. 家目標と基本方針について

- (1) 穏やかに安心して楽しく生活できるようにし、寄り添うケアと精神面のケアを重視し、不安等の緩和に繋げてきました。
- (2) ベッドで休んでいる方のケアとして、一日一回の離床に心掛けると共に、無理のないレクや行事に参加できるようにしてきました。
- (3) 笑顔で過ごせるよう、個々が必要としているものをしっかりと把握しながら安心して過ごせる生活の環境づくりに努め、暖かい日には庭で昼食会を行う等の工夫をしてきました。
- (4) 高齢に伴う、日々の体調の変化を見逃さず、個々の身体状況に応じたケアを提供できるよう、職員間で意見交換や情報の共有を行い、その人らしい生活が送れるよう支援してきました。
- (5) 心身共に寄り添うケアでは、今、何をして欲しいのか、何を訴えているのかを、業務やケアが優先になってしまい対応が遅れる事もあった。

2. 生活全般について

(1) 食事について

- ① ユニット内での味噌汁作りは、一緒に材料を切る所から始め、フロア内に香りが漂い、「まだ出来ないかな～」と待っている様子が見られました。
- ② 体重増加や体調等に合わせ、隨時、食事量や形態等の見直しを行い、多職種間と協力しながら食事を提供することが出来ました。
- ③ 経管栄養の方もコミュニケーションを図るため、昼食の時間等にテーブルを囲み会話を楽しみました。

(2) 排泄について

- ① 尿臭対策に努めると共に、今後も試行錯誤しながら消臭の原因を確認し、対策に努めて行きたいと思います。
- ② 尿量に合ったパットの選定や、見直しをすることで皮膚のトラブルを防げた。
- ③ 職員間の会話の中で、言葉遣いやプライバシーの配慮に欠けていた事があり、今後はそのようなことがないよう十分に気を付けて行きたい。
- ④ トイレ介助や排泄交換は、個々の体調等に合わせ2人対応が増えてきましたが、夜勤者等の協力により安全に行うことができました。

(3) 入浴について

- ① 気持ちよく満足して入浴して頂けるよう、身体状況を把握することで、安心して入浴することが出来たと思います。
- ② 入浴剤やローション使用で皮膚の保護に努めることができたと思います。
- ③ 特浴の利用者が増え、安全に入浴を実施するため、シャワーチェアー上での体勢作りや内出血防止のための保護用具の工夫等、対策に努めてきました。
- ④ 最期まで入浴して頂きたいとの職員の想いから、他のユニットや看護師の協力のもと、体調を見ながらゆっくり入浴することが出来ました。
- ⑤ 「お風呂の日」では（ゆず・りんご・よもぎ）等を入れた浴槽で、ゆったりと入浴して頂き、季節感も味わって頂くことが出来ました。

3. 家内の取り組みについて

- (1) 職員の異動があっても、お互い様の気持ちで協力し合い、良い雰囲気の中で取り組むことが出来ました。
- (2) 野菜を育て、育った野菜を家で調理し、一緒に美味しく頂きました。
- (3) パタカラ体操に力を入れ、普段歌わない方も歌うことが出来ました。
- (4) 経管栄養の方も増え、ベッドでの移動も多くなっていますが、どのようにしたら満足して頂けるのか、何度もケアの見直しや心情を汲み取ることで、少しはケアに活かせたのかなと思います。
- (5) 白寿のお祝いを自宅で出来たことは、本人としても私達にとっても嬉しい出来事でした。
- (6) ミニディでは普段レク等には参加しない方も参加し、いつもとは違う雰囲気で皆さんと過ごすることは良かったと思います。
- (7) 室内で過ごすことが多くても、四季の花々を飾ることで季節感を感じとり「きれいだな～」との言葉や笑顔が見ることが出来ました。
- (8) 意思表示が困難な方に、少しでも発声して頂こうと声掛けを重視すると、アイコンタクトで応えてくれたり、「はあ～」と発してくれたりと、努力の甲斐があったと思いました。
- (9) 居室で過ごす方には、出来る限り話相手になったり、音楽を聴いて頂いたり、テレビ等を観て頂く等、孤独感のないように努めることができます。
- (10) ターミナルケアでは、皮膚の状態の悪化や拘縮等で日々変化する事に対し、毎日、試行錯誤でした。突然の体調不良などで入院し、最期にホームで看取ることが出来なかったことがあり残念なこともあります。なによりも、家族から感謝の言葉を頂いた時は、感無量で頑張ってケアして良かったと思う反面、自分達のケアは何処まで出来たのかと考えさせられることもありました。

令和元年度 せせらぎの家 生活報告書

1. 家目標と基本方針について

- (1) 「自分らしい生活」が送れるようお手伝いをする。その方にとっての自分らしさとは何かを考え、1から10までお手伝いをするのではなく、時間がかかっても出来る事は自分でして頂く事については、大きく構えて待つと云った行動が出来ず、時計の針を見つめ手を差し伸べてしまふ事があり、今後の課題として考えて行きたいです。
- (2) 利用者の保有能力が維持出来るよう介護用品を活用し、出来る事は自分で行って頂くよう支援に努めたが上手く波に乗れなかつた面もありました。
- (3) ケアの提供をすることにあたり、利用者、介護職員共に負担のないよう、職員間でアイディアを持ち寄り、個々に合った生活スタイルを尊重することが出来たのではないかと思います。
- (4) 24Hシートを活用し一人ひとりに合った生活スタイルを大事にしてきました。
- (5) 申し送りノートだけでなく、その日の勤務者同士が話し合い、次に引き継ぐ事が出来たのではないかと思われますが、業務優先的な場面も時に見られ今後の課題でもあります。
- (6) 家族の面会時には介護職員側から積極的に話しかけ情報収集に努めた。
- (7) 個々に合ったコミュニケーションを自分なりに考え、沢山の笑顔が見られたことが介護職員側にとってとても嬉しい一年だったと思います。

2. 生活全般について

(1) 食事について

- ① メニューに合わせて食器の選択や盛り付けに工夫。利用者の前での配膳にも心掛けてきた。
- ② 咀嚼、嚥下状態を把握し、体調変化に伴い食事形態の見直し等、隨時、検討し提供する事ができた反面、介護職側と厨房側での意見の相違がみられたこともあった。次年度は、委員担当等で、栄養学を学べる時間を設けても良いのではないかとも思います。
- ③ 家料理の機会を設ける事が出来ませんでした。次年度は、改めて計画を立てて行きたいと思います。
- ④ 誤嚥や口臭対策として個々に合った口腔ケアを行い、レクや昼食前のパタカラ体操を毎日行うなど予防策に努めてきました。
- ⑤ 食事摂取量に応じ、補助食品の追加や食欲を促すため個別にメニューを変え、個々に合った形態を提供する事で食欲増進に繋げる事ができました。

(2) 排泄について

- ① 排泄チェック表を活用し、個々の排泄時間、尿量や尿臭対策に合ったパットの選定など、負担の少ないケアが行えました。
- ② 羞恥心に配慮し、異性でも信頼関係を築けるよう努力してきました。
- ③ トイレの環境を整え、快適に済ませられるよう下剤の調整や、2人対応での移動介助。介護職側が“何でも来い”と云った大きな気持ちで今後も対応にあたっていきたいと思います。

(3) 入浴について

- ① 職員の負担軽減のため介護用具の有効活用や、他の家の協力のもと、個々の体調に合わせた入浴スタイルで行い、安全・安楽に楽しい時間を過ごして頂けたことと思います。
- ② 羞恥心に配慮した声かけや、マイバスタオルの活用など、自分だったらどのようにして欲

しいかを考えながら対応してきました。

- ③ やってあげたいと云う気持ちで行った行動が、逆に内出血等に繋がってしまった事があり個々を知る事の難しさを感じました。

(4) 生活について

- ① 少しの変化も見逃さないようにするにはその方を知る。ちょっとした手間でもその人のために時間を作る過程が大切なのではと思います。
- ② 朝のラジオ体操は、一人ひとりの生活スタイルを考慮すると、実行することが難しいこともあり行う事が出来なかった。
- ③ ドライブや買い物など、遠出の機会を設ける事があまり出来なかった。
- ④ 利用者から「どれやるから持ってこい」と言われ、新聞たたみに集中力を高め取り組む姿勢は見習いたいところがありました。
- ⑤ 自分の言った事を否定されると、それに対して声がどんどん大きくなるため、相手の目線に立ち穏やかな気持ちで今後も対応していきたいと思います。
- ⑥ センサーマットの否かについては家会議で毎月話し合い検討を行ってきました。
- ⑦ 終末期に於いては、ある家族が「こんな簡単に逝ってしまうんだ」との言葉がありました。そんなに簡単に逝ったわけではないのですが、家族に看取られ生涯を閉じる事が出来たことは幸いです。
- ⑧ 職員同士互いを尊重し気軽に話し合うことが出来たように思います。また、委員会の方については、委員の方が手本となる動きが見られ、とても良かったのではと感じました。

3. 家内の取り組みについて

- (1) 働き方改革により、今までの業務を見直し、限られた時間で質の良いケアを提供できるようホーム、ユニット内で考え方取り組んできました。

最初は不安や心配もありましたが、徐々に効率の良い仕事を意識するようになり、利用者についてのケアの方法やコミュニケーションのあり方など、これまで以上に考えるようになりました。

- (2) 新しい事を取り入れながら、いいじてホームらしいユニットケアが出来るよう、これからもステップアップの努力をして行きたいと思います。

令和元年度 だんらんの家 生活報告

1. 家目標と基本方針について

- (1) 「日々の生活の中でちょっとした変化や本人の思いを感じとり、その人らしく生き生きと笑顔で過ごして頂けるようなケアを行っていくよう心がける」を目標として、1年間生活を共にしてきましたが、ケアを統一する難しさを感じさせられる1年でもありました。
- また、働き方改革により時間に追われるような毎日になっていたようにも感じました。その中でも、何が1番ベストなのか考えてケアにあたることができていたと思います。
- (2) ベッド上で長い時間過ごされる方もおり、1日1回は離床しレクリエーションへの参加や、音楽を聴いたり、話をしたりとメリハリのある生活を送って頂きました。その時の笑顔は今も忘れることができないくらい嬉しく感じました。
- (3) 体調を崩される方もいましたが、無理強いすることなく、個々に合ったケアの方法で過ごして頂いたり、また、個性豊かな方も多く、毎日、笑いの絶えない日々を過ごすことができ、昨年よりも明るく楽しいユニットでした。
- (4) 2月に1人の方を見送りました。最期までその方らしく生活して頂けるように、職員が一丸となりケアに取り組んできました。
- (5) 2月に入居した方は、とても話好きで歌や踊りも上手、更に、ユニット内の雰囲気も良くなり利用者同士の会話も増え、安心して楽しく過ごして頂けていると思います。今後も、一人ひとりに寄り添い、個性を尊重しながらその方らしく、生き生きと生活して頂けるようケアに努めたいと思います。

2. 生活全般について

(1) 食事について

- ① 個々の状態に合わせた食事形態・量で提供できるよう、看護師・栄養士・ユニット内でも話し合い、隨時、見直しを行ってきました。「美味しく食べて頂けるにはどうしたらよいのか」「何なら食べられるのか」を考えながら、目の前で配膳を行ったり、食欲が沸くような盛り付けをしたり、声かけを工夫することで食事の時間を楽しく笑顔で過ごせたこと思います。また、残食も少なく皆さん美味しそうに召し上がり元気なことからも、改めて口から食べると云うことの大切さを実感することができました。
- ② 食膳体操「パタカラ体操」「あいうべ～体操」をしっかりと行うことで、唾液分泌、口腔機能の維持・向上に努め、むせり・誤嚥予防にもなり、また、経口摂取を維持することができました。毎日継続して行うことで音楽が流れると自然に大きな声を出されている方もおり継続することの大切さを知ることもできました。
- ③ 体調変化があった時も、早急に状態把握、申し送りを徹底することで、対応ができたと思います。

(2) 排泄について

- ① 個々に合った排泄パターンを把握し、交換時間やパットの選定を行い、変化があった時には見直しを行うことで快適に過ごして頂きました。
- 皮膚トラブルも少なく、尿臭もきつくなる前に、排泄時間の把握や交換回数、パットの見直しを行うと共に、申し送りを徹底、統一した対応をすることで軽減することができました。

② 排便コントロールも一人ひとりにあった間隔や対応方法でスムーズにできました。

普段ベッドでの交換の方もトイレに座り排泄することで、すっきりした表情が見られ、トイレでの排泄の大切さを再確認できました。今後も負担の少ない、個々に合った方法、無理のない範囲で行つていきたいと思います。

③ 介助中の言葉遣いに注意し、プライバシー保護に配慮しながら行うことができていました。

(3) 入浴について

① 個々に合った入浴方法を話し合い、他ユニットの協力のもと、安全・安心・安楽に入浴して頂けたと思います。入浴後には「気持ち良かった。良い湯だなあ～」と言われる方もいました。今後も望んでいる入浴を提供できるよう心掛けていきたいです。

② 個々の皮膚状態に合わせ入浴剤や保湿クリームを使用、機械浴で入浴される方にはシャワーチェアにもクッションを使用し、皮膚トラブルが起きないよう統一したケアで対応することができました。

③ 入浴中に音楽を聴きながら一緒に歌い、季節のお風呂を楽しみ気分よく楽しい入浴時間を過ごして頂けたことだと思います。

職員も時間に追われることなく余裕を持っての介助に心掛けており、会話も自然にでき、個々に沿った入浴の対応ができていました。

(4) 生活について

① ティータイムでも職員と一緒に場所で過ごせるようテーブルの配置替えをすることで、職員も会話が増え、ゆったりした時間を過ごすことができました。

② ベッド上で過ごされたり、離床時間の短い方もいることから、個々に合わせた声かけや、コミュニケーションに心掛け、職員一人ひとりが日々の目標を持って支援するよう工夫できていたと思います。

3. 家内の取り組みについて

① 体力がなくすぐに疲れてしまうことが多い中、体調が良い方や、普段ベッドで過ごされている方も出来るだけレクリエーションに参加して頂きました。参加された方は、終始笑顔で樂しまれ表情も良く元気にしていました。笑顔で樂しまれている姿を見ると、お互いに自然と笑顔になり「良かった」と思う瞬間です。

② 個々の生活パターン、リズムを把握し一人ひとりにとってベストなケアは何かを考え、話し合いをすることで信頼関係も築け、家族のように過ごすことができました。時間に追われるのではなく、余裕を持って対応することで落ち着き、安心して過ごせるのだと感じました。

③ 個々の状態をしっかり把握、統一、情報の共有ができていたことで、ちょっとした変化にすぐ気付くことができて良かったと思います。

④ 他ユニットの職員がシフトに入る時には、情報の伝達や、ケア統一ができていなかった時もあり、利用者の方に不安な思いをさせてしまったことも少なからずあったと思います。

今後は、しっかりと情報を共有し、全職員で統一したケアができるよう心掛けていきたいと思います。

これからも個々の生活を大切に、笑顔溢れる楽しい家、ご利用者も職員もここで良かったなと思えるようなケアを心掛け、悔いのないよう最期まで過ごして頂けるようにして行きたいと考えています。

令和元年度 こもれびの家、生活報告書

1. 家目標と基本方針について

その人らしい生き方、今何をしたいのか、何をお手伝いして欲しいのかを考え、また、家族との交流を深め、「曲がりくねった道」でも同じ終点を目指すことを目標に一年間取り組んできました。

日中、ホールで過ごされる方と一緒に洗濯物を畳んだり、ティータイムでお話をしながらお茶を飲んだりと接する時間を大切にしてきました。また、居室で過ごされる方には、こまめに足を運び孤独を感じさせないよう努めてきました。

高齢でも立位歩行の方が多いため、見守りや介助等で転倒のリスク予防に努めてきました。意思表示が少ない方に対しては、様子を見ながら、今何をしたいのか行動の意味を考え対応してきました。

2. 生活全般について

(1) 食事について

個々に合った食事形態を状況に合わせ提供することで、美味しく食べて頂けるよう努めきました。

食前には、パタカラ体操を行い唾液促進してから食事を摂取してもらいました。

食事の姿勢も注意し、車椅子の高さに合わせ、食べ易いテーブルの高さに調整しました。

起床時間によって、食事の時間が異なる方にも生活パターンに合わせ、食事が取れるようにしてきました。

また、食欲がない方には、声掛けの工夫で食事を取りて頂けるようにしてきました。

(2) 排泄について

排泄チェック表を活用することで、個々に合ったパットの選定や排泄交換ができた。また、自然排便が出来るよう食物纖維等で対応し、下剤に頼らない排泄に心掛けたが思うような結果が得られなかった。

尿カテーテルをされている方には、自己抜去されないための工夫や、本人の行動を、申し送りを徹底することで問題等は起きました。

(3) 入浴について

入浴することで身体の保清が保たれ、また、皮膚の状態を観察し保湿クリームや痒み止めを塗布することで皮膚のトラブル予防ができました。

個浴では、ゆっくり音楽を聴きながら入浴を楽しんで頂きました。

機械浴利用者の移乗には、不安を感じさせないよう、他ユニット職員の協力により、安全に実施することができました。

3. 家内の取り組みについて

我が家では、個々の生活スタイルに合わせた起床介助を行い、スッキリと目覚めてから食事摂取することに心掛けてきました。

生活のメリハリをつけるため、午前はレクへの参加で他の家の方との交流を図り、午後になると、帰宅願望等の症状がみられる方もおり、職員の連携で見守りや散歩をして頂くことで、気持ちが和らぎ、また、転倒等の防止に努めてきました。

ホームでは家族以上に接する時間が多く、ここで生活出来て良かったと思ってもらえるよう取り組んでいきたいと思います。